

# 汎用的能力の育成と評価について

国立教育政策研究所  
教育課程研究センター基礎研究部  
後藤 顕一

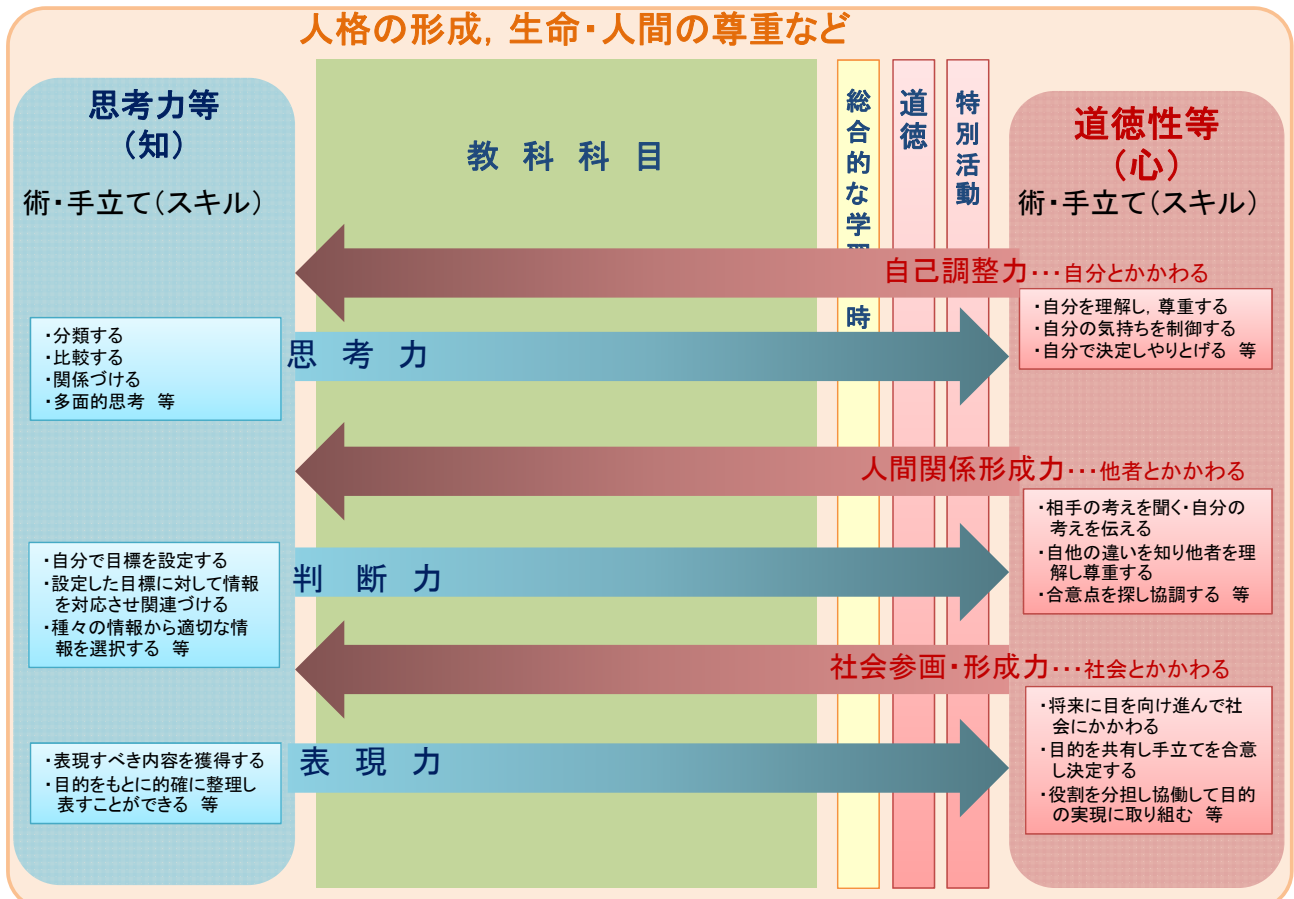
## 汎用的能力の育成と評価について

- ① 高等学校で身につけておくべき汎用的能力について(後藤)
- ② 汎用的能力の育成の取組事例について(後藤)
- ③ 学びや評価に関する考え方について(白水)

# 学習指導要領における汎用的能力の扱い

年代	特徴	主な考え方
昭和20年代	児童生徒の生活経験を重視	主に指導内容を中心に構想
昭和30年代	系統的な学習を重視	
昭和40年代	教育の現代化	内容と資質能力について踏まえたものの、内容を重視
昭和50年代	人間性豊かな児童生徒を育てる。ゆとりのある充実した学校生活	内容の精選といった、内容についての議論が中心
平成元年度～	個性教育の推進 自己教育力の育成	
平成10年度～	生きる力 基礎・基本の確実な定着と個性を生かす教育の充実	教育内容の厳選と授業時数の削減 個に応じた指導の充実 (学習内容と資質・能力について検討されはじめる)
平成20年度～	教育基本法改正 生きる力 知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視	学校教育法の規定を受けた資質・能力の明確化、 言語活動の充実等が総則に示される (汎用的能力といえる)

## 「教育課程の編成に関する基礎的研究」から得られた示唆



① 高等学校で身につけておくべき汎用的能力について

高等学校では、汎用的な能力のひとつとして、知識の基盤ともなる緻密な論理構成能力(言語的な論理構成能力と数量的な論理構成能力)を育成することが大切である。

論理構成能力 中心となる教科  
 言語的な論理構成能力……………国 語  
 記号・数量的な論理構成能力……………数 学

現 状

- (1) 高等学校は、考える力(論理的な思考力)等を育成する場であるが、指導が十分されているとは言い難い。
- (2) 高等学校の大学進学率が中程度の学校は、目的を見失いがちでモチベーションが保てているとは言い難い。教員も本来学ばせるべき指導内容を授業で実践し尽くしているとは、言い難い。

(国立教育政策研究所プロジェクト研究「理系進路選択」調査より)(平成24年)

生徒の教科科目に対する意識などを調査……「数学」に対する意識調査

- 進学率の高い学校は、理系文系に関わらず、数学を「好きだ」、「重要だ」と考える度合いが高く、生徒は、教科の本質を捉えられているといえる。このことは、生徒は文系であっても、緻密な論理構成能力の獲得を求めていると考えられる。(質問紙調査)
- 高等学校においては、大学入試ばかりに意識が集中している傾向があり、内容を単に網羅的に教えたり、その教科・科目で育成すべき本質的な能力を育てる視点で科目選択・学習指導がされていない等の可能性が否めない。(質問紙調査、訪問インタビュー調査)

高校1年生 あなたが将来生きていく上で重要な学習 数 学 N=33,071

□とても重要だ □重要だ □あまり重要ではない □まったく重要でない ■無回答など

進学率	とても重要だ	重要だ	あまり重要ではない	まったく重要でない	無回答など
大学志願9割以上の学校に通う高校1年生	23	42	28	7	
大学志願9割未満6割以上の学校に通う高校1年生	19	41	30	8	2
大学志願6割未満3割以上の学校に通う高校1年生	19	41	31	8	1
大学志願3割未満の学校に通う高校1年生	21	44	26	7	2

高校3年生 あなたが将来生きていく上で重要な学習 数 学 N=33,127

□とても重要だ □重要だ □あまり重要ではない □まったく重要でない ■無回答など

進学率	とても重要だ	重要だ	あまり重要ではない	まったく重要でない	無回答など
大学志願9割以上の学校に通う高校3年生	18	36	34	11	1
大学志願9割未満6割以上の学校に通う高校3年生	12	36	38	19	1
大学志願6割未満3割以上の学校に通う高校3年生	12	37	38	12	1
大学志願3割未満の学校に通う高校3年生	17	42	32	8	1

① 高等学校で身につけておくべき汎用的能力について

**論理構成能力等**，汎用的な資質・能力を育成するためには，**具体的な手立て・術(スキル)等**，考える方略を示す必要性がある。

資質・能力，知識(学習内容)，どのような形で提示するかを検討

- ① 資質・能力についての枠組み作り(構造化)
- ② 資質・能力をはぐくむ手だて，術(スキル)の整理
- ③ 資質・能力の実効的な教育を可能にする学習形態・評価法(今後さらに検討が必要な課題)

国立教育政策研究所プロジェクト研究「教育課程の編成に関する基礎的研究」  
(平成21年～25年度)

これらが可能になれば，高等学校の質の保証に寄与できるのではないか。

② 汎用的能力の育成の取組事例について

事例1 論理構成力の育成を図り，卒業論文を作成させる例

〔広島県立広島中学・高等学校 文部科学省指定：研究開発学校〕

- 論理的なスキルのトレーニングを，日本語で中1，中2の時期に集中的に行う
- 高校3年で，課題別研究を行い，卒業論文，卒業制作を行い，研究・作品発表を行う。

「ことば科」における段階的な「思考や表現の型」等のトレーニング期と内容

段階	「思考すること」について	「表現すること」について
第1段階・1年1学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多角的な見方・考え方</li> <li>・立場や条件による考え方の違いについて読み取らせる</li> <li>・5WIHの視点で聞き取らせる</li> </ul> <p>例：視覚メディアの分析トレーニング</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○言いたいことの明確化</li> <li>・結論先行で述べさせる</li> <li>○筋道立てた考え方</li> <li>・理由や根拠を明らかにさせる</li> <li>・主述の整った文で述べさせる</li> <li>○まとまりの意識化</li> <li>・段落を意識させて文章を書かせる</li> </ul> <p>例：受け答えのトレーニング</p>
第2段階・1年2学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○秩序だった視点の移動</li> <li>・大まかな情報をとらえさせた後，詳細な情報について気づきを挙げさせる</li> </ul> <p>例：図形の描写トレーニング</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○比較・分類・関連等の場</li> <li>・情報(文，図，絵，グラフなど)を比較させ，共通点や相違点を見つけさせる</li> <li>・自分の意見と比較させながら友達の発言を聞かせる</li> <li>・必要な情報とそうでない情報に分類させる</li> </ul> <p>例：ミニ・プレゼンテーション・トレーニング</p>
第3段階・2年2学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○相手や目的の意識化</li> <li>・分析のポイント(観点)を明確に示す</li> <li>・相手や目的に応じて表現の仕方を変えさせる</li> <li>・ねらいに即して，資料を読ませる。</li> </ul> <p>例：グラフなどの分析トレーニング</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○比較・分類・関連等の場</li> <li>・事実と意見に区別させる</li> <li>・既習事項，生活経験，複数の理由などと関連づけて考えさせる</li> </ul> <p>例：ミニ・ディベート・トレーニング</p>

## 事例1 論理構成力の育成を図り、卒業論文を作成させる例

広島県立広島中学・高等学校

【得られた成果や示唆】(担当者インタビューより)

- 通常と比べ、生徒の論理的思考・表現に係る能力や意識が高まっている。そのことは、「ことば科」の授業で学習しているだけでなく、ディベート大会や弁論大会等の行事や各教科での指導状況から生じたのではないかと思われる。
- 高等学校において、中学校で「ことば科」(当時は〈論理〉のみを履修)を学んだ生徒(各学年:約160名)に対する意識調査を行った結果、「広島中学校における『ことば科』の授業で学んだことは、高等学校の学習活動等に活かされている」と肯定的な回答をした生徒の割合は、90%近くである。
- 論理的なトレーニングが活かされた場面について、生徒アンケートでは、「①発展期における「卒業研究」の論文作成をはじめとする文章作成、②プレゼンテーションや討論活動という発表や話し合いの活動において活かされている。③文章やグラフ等の読解・分析の際に様々な角度からとらえようとする習慣ができるようになった」という回答も見られた。

論理構成能力等、汎用的な資質・能力に加えてさらに、具体的な手立て・術(スキル)等、考える方略を示している取組事例(価値の自覚)

8

## ②汎用的能力の育成の取組事例について

### 事例2 総合的な学習の時間の活用した例

体験活動、課題研究を基にした、論文作成

〔群馬県立前橋高等学校:キャリア教育「体験活動事例集」より〕

活動の特色	○ ほぼ全員が上級学校へ進学する全日制普通科の男子校 ○ 総合的な学習の時間の中で、1年生では「現代社会を見つめる」、2年生では「自己を見つめる」、3年生では「将来を見つめる」を学年テーマとして、各学年で課題研究 ○ 1年生は研修旅行、2年生は大学企業訪問、大学模擬体験、3年生は論文作成
活用のポイント	130年の伝統を誇る全日制普通科の男子校で、ほぼ全員が上級学校へ進学する。総合的な学習の時間の中で、内発的な学びの集団を形成し、自主的な学習能力を育成することに力を入れている。1年生では「現代社会を見つめる」、2年生では「自己を見つめる」3年生では「将来を見つめる」を学年テーマとして、各学年で課題研究を行っている。これに1年生の研修旅行、2年生の大学企業訪問、大学模擬体験等の体験が組み合わせられ、それらの成果として3年間で3本の論文を作成する。この課題研究の過程が、社会に対する視点から自分の将来へと絞り込んでいくようになっている。 また、各学年の課題研究の具体的内容が、1学期は課題発見活動、2学期は課題探究活動、3学期はまとめと発表活動と型やスキルが決まっており、そのことが「型やスキルの定着」につながっている可能性がある。 「キャリア教育 体験活動事例集」平成20年3月 国立教育政策研究所

【得られた成果や示唆】(報告書より)

- 総合的な学習の時間を活用した体験活動が、キャリア意識の形成につながり、生徒の満足度も高い。
- 論理的な思考力、問題解決過程を踏まえた学習活動を通じて、「学びの型」や「スキル」を体得していくこと。

9

## ②汎用的能力の育成の取組事例について

### 事例3 総合的な学習の時間を柱にして、学校生活全体との関連させる例

#### 〔埼玉県立浦和高等学校〕

##### ①総合的な学習の時間の活用

- ・国語科と連携し「論文の教室」(戸田山和久著NHK出版)を精読し、**論理の基本**や**論文の構造を学んだ**のち、**この方法を手本(型)として生徒が設定した課題に沿った論文を2本作成(1年次後期)**。
- ・全教科の教員が指導(ゼミ形式授業)し、生徒は、**総合小論文を執筆する。「調べ、考え、書く」活動の推進・徹底＝論理力の基礎を育成(2年次)**

##### ②各教科の授業での指導意識

教科の内容だけではなく、これからの社会に必要な能力を育成する視点を常に持ちながら総合的な視点から各教科が指導できる。

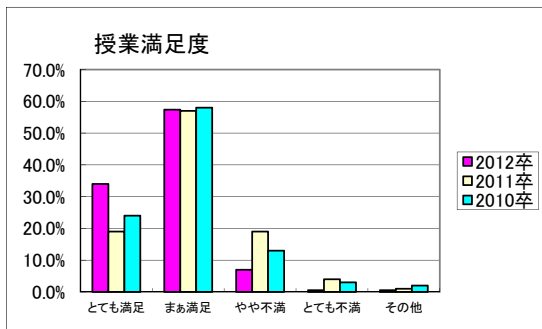
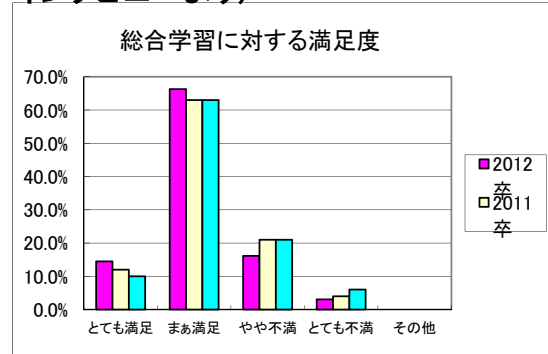
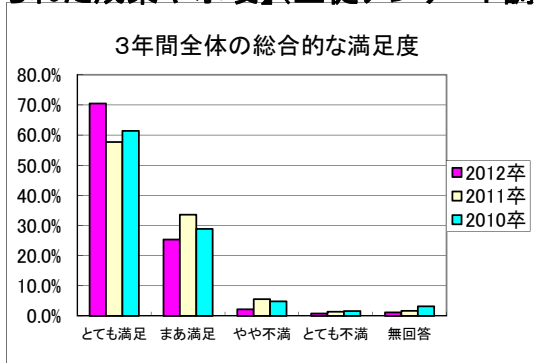
→ 本物の追求、協働的な取組の重視

##### ③多様な学習機会の提供

- ・グローバルな視点を育てる留学体験、
- ・高度な研究機関、大学への訪問体験、学習体験
- ・放課後の卒業生(専門家)による講座

後藤 科学教育学会「高校進学校におけるキャリア教育の好事例」2012科学教育学会 10

#### 【得られた成果や示唆】(生徒アンケート調査、インタビューより)



総合的な学習の時間を中心に据えた学びが、汎用的な力、論理的構成能力の育成につながる。最低限必要な資質・能力を示し、総合的な学習の時間の活用、各教科の中で意図的に育成することにより、生徒の満足度は高まり、進路希望の実現、進路先での活躍にも寄与している。

## 見いだされる視点

1. 汎用的な能力を示し、それを意図的、計画的に育成をすることが大切である。
2. 例えば、高等学校で学んだ日々の学びにおける履歴や卒業課題、卒業作品、卒業論文等の成果物を活用することがひとつの方略と考えられる。

・ご紹介させていただいた学校においても、評価については課題である。

学びや評価に関する考え方について、白水総括研究官からございます。